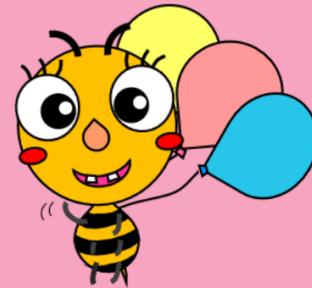


ふくら通信

～2022年冬号～



暦の上では春とはいえ、まだまだ寒さ厳しい日が続いておりますね。ふくら通信は2022年最初の号となりますが、今年もどうぞよろしくお願い致します。

2月3日は節分でしたね。先日ふくらにも鬼がやってきました！新聞紙で丸めた豆を鬼に向かって必死で投げて・・・豆を投げたら、改心したのか皆と記念撮影をする鬼さんでした！気が付いたらかわいい鬼さんもいましたよ☆可愛くてこちらの鬼さんにはお豆は投げられませんね！！

日本の古くからの伝統や季節行事として大切にしていきたいと思っております。また、3月にはひな祭りもありますね。こちらは女の子が健やかに育つように、子どもの身体に紙の人型を触れさせて、人型に邪気を移して川に流すという事から始まり、江戸時代頃から現代の様な豪華な雛人形を飾る習慣に変化していったとも言われているようです。季節ごとの行事も由来や意味を改めて考えると面白いかもしれませんね☆

ふくらでも日々の活動の中にこのように季節を感じられる内容もこれからいろいろと行っていこうと思います。



こんな可愛い鬼さんも！

代表コラム



「ふくらで働く職員」

ふくらの職員は、看護師であったり保育士であったり、指導員であったりといろいろな職種で成り立っております。その中には障がい児である我が子を亡くされた経験を持つ職員が今までに複数名入職してくださいました。

子を失う辛さと悲しみはそう簡単には癒えないことでしょう。それでも自分の経験を、どこかで役に立てたいという尊い気持ちからふくらに来てくださり、子供たちと心のかような温かい支援を担ってくれております。他のスタッフもこの仕事を選んでいるだけあって、手前みそではありますが、心根の優しいスタッフばかりです。天国に行かれたお子さんを共に偲んで、時々一緒に涙を流しております。世の中は目に見えない誰かの悲しみや努力の上に成り立っているんだな・・・と、私は事業を運営する者として、そんな感謝の思いを忘れてはいけないと思っております。

「心を込める」PART 2

休日を外で楽しむ機会が減りネット通販がとても盛んな時代となっております。私もブームに乗ってお取り寄せを覚え、時々楽しんでおりますが、その中でもテレビでも紹介されたことのある、福井県の「谷口屋のお揚げ」は、油揚げが厚切りトーストのようなボリューム！フライパンで焼いて食べるとそれがメインディッシュになります。ウキウキして箱を開けると「私がお客様の商品を詰めました。お客様が幸福な気持ちになれますように。」というメッセージが入っておりました。心を込めて「作る」だけではなく、詰める作業にも思いを込めてくれるなんて・・・と、なんだかとても幸せな気持ちになりました。なるほど、商品の佇まいも凛としてとても美しい。日本一の油揚げと言われるだけの秘訣は、こういったところにあるのではないかと感じました。ふくらでは、畑を作って商品をセブンイレブン小目町店に少しですが販売させていただいております。畑を作っているのは職員ですが、商品の袋付けをしたりシールを貼ったりのお仕事を生活介護のみんなが頑張ってくれています。心を込めることは商品の付加価値を高める素晴らしいことなのだと伝えるたいと思っておりました。春になったら、まだ寒さの中で身を縮めている野菜たちが大きく成長してくれることでしょう。

